

用途区分6号:百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考	
						内容	実施時期		
1	サンモール Aブロック	中区紙屋町二丁目2番地27外	物販店舗	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.13 Is/Is0=0.24 Ctu・SD=0.16	耐震改修	未定	耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 7階 Is=0.44 Ctu・SD=0.46 6階 Is=0.37 Ctu・SD=0.39 6(機械室)階 Is=0.18 Ctu・SD=0.19 5階 Is=0.66 Ctu・SD=0.69 4階 Is=0.56 Ctu・SD=0.59 3階 Is=0.53 Ctu・SD=0.56 2階 Is=0.42 Ctu・SD=0.44 1階 Is=0.55 Ctu・SD=0.57 Y方向 7階 Is=0.41 Ctu・SD=0.43 6階 Is=0.32 Ctu・SD=0.33 6(機械室)階 Is=0.24 Ctu・SD=0.32 5階 Is=0.20 Ctu・SD=0.26 4階 Is=0.28 Ctu・SD=0.29 3階 Is=0.22 Ctu・SD=0.23 2階 Is=0.13 Ctu・SD=0.16 1階 Is=0.25 Ctu・SD=0.26	
	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)							Is=0.63 Is/Is0=1.16 Ctu・SD=0.66	塔屋部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 PH階 Is=0.83 Ctu・SD=0.87 Y方向 PH階 Is=0.63 Ctu・SD=0.66
	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)							Is=0.03 q=0.11	耐震診断の結果(詳細) Y方向 4階 Is=0.05 q=0.18 3階 Is=0.03 q=0.11 2階 Is=0.11 q=0.44
	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)							Is=0.06 q=0.25	耐震診断の結果(詳細) X方向 7階 Is=0.14 q=0.55 6階 Is=0.09 q=0.35 5階 Is=0.06 q=0.25 4階 Is=0.12 q=0.49 3階 Is=0.10 q=0.39 2階 Is=0.11 q=0.43 1階 Is=0.11 q=0.43
2	中国新聞文化事業社ビル(広島三越)	中区胡町5番の1, 2, 3, 4, 19, 20, 21	百貨店	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.66 q=1.00	耐震改修済	—	—	
				別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=0.82 Is/Is0=1.13			塔屋部分A 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72	
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.56 Is/Is0=1.03 Ctu・SD=0.57			塔屋部分A 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54	
				別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=0.80 Is/Is0=1.11			塔屋部分B 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72	
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.54 Is/Is0=1.00 Ctu・SD=0.56			塔屋部分B 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54	
				別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=0.80 Is/Is0=1.11			塔屋部分C 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72	

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
3-1	天満屋八丁堀ビル A・B棟	中区胡町5番9, 18, 22	物販店舗	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.05 q=0.09	耐震改修	検討中	S造部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 8階 Is= 0.11 q= 0.45 7階 Is= 0.12 q= 0.51 Y方向 8階 Is= 0.05 q= 0.09 7階 Is= 0.07 q= 0.29
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2001年版)	Is=0.06 Is/Is0=0.11 Ctu・SD=0.06			RC造部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 7階 Is= 0.28 Ctu・SD= 0.20 6階 Is= 0.18 Ctu・SD= 0.15 5階 Is= 0.13 Ctu・SD= 0.14 4階 Is= 0.13 Ctu・SD= 0.14 3階 Is= 0.14 Ctu・SD= 0.14 2階 Is= 0.14 Ctu・SD= 0.15 1階 Is= 0.16 Ctu・SD= 0.17 Y方向 7階 Is= 0.16 Ctu・SD= 0.11 6階 Is= 0.17 Ctu・SD= 0.12 5階 Is= 0.09 Ctu・SD= 0.09 4階 Is= 0.08 Ctu・SD= 0.08 3階 Is= 0.08 Ctu・SD= 0.08 2階 Is= 0.06 Ctu・SD= 0.06 1階 Is= 0.11 Ctu・SD= 0.09
3-2	天満屋八丁堀ビル C棟	中区胡町5番9, 18, 22	物販店舗	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版) 鉄骨が非充腹材の場合	Is=0.13 Is/Is0=0.24 Ctu・SD=0.12	耐震改修	検討中	SRC造部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 8階 Is= 0.13 Ctu・SD= 0.12 7階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.22 6階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.21 5階 Is= 0.15 Ctu・SD= 0.16 Y方向 8階 Is= 0.16 Ctu・SD= 0.17 7階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.21 6階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.20 5階 Is= 0.18 Ctu・SD= 0.20
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2001年版)	Is=0.11 Is/Is0=0.20 Ctu・SD=0.15			RC造部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 4階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.25 3階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.18 2階 Is= 0.23 Ctu・SD= 0.19 1階 Is= 0.11 Ctu・SD= 0.15 Y方向 4階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.31 3階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.27 2階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.27 1階 Is= 0.41 Ctu・SD= 0.34
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.20 Is/Is0=0.37 Ctu・SD=0.18			SRC造部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 11階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.21 10階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.24 9階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.24 8階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.24 7階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.22 6階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.23 5階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.22 4階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.23 3階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.23 2階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.23 1階 Is= 0.28 Ctu・SD= 0.24 Y方向 11階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.26 10階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.23 9階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.23 8階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.23 7階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.25 6階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.23 5階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.23 4階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.23 3階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.25 2階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.18 1階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.20

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
4	東劇ビル	中区胡町5番地7, 8, 9, 18	物販店舗	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.38 q=1.47	未定	未定	耐震診断の結果(詳細) X方向 8階 Is=1.89 q=2.94 7階 Is=1.31 q=1.78 6階 Is=1.13 q=1.73 5階 Is=1.40 q=2.15 4階 Is=1.39 q=2.45 3階 Is=1.30 q=2.43 2階 Is=1.16 q=2.07 1階 Is=1.33 q=2.46 Y方向 8階 Is=1.24 q=2.20 7階 Is=0.87 q=1.51 6階 Is=0.84 q=1.47 5階 Is=1.15 q=1.97 4階 Is=1.43 q=2.54 3階 Is=0.38 q=1.53 2階 Is=0.38 q=1.53 1階 Is=0.38 q=1.53
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.41 q=0.69			塔屋部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH2階 Is=1.09 q=1.95 PH1階 Is=0.73 q=1.30 Y方向 PH2階 Is=0.41 q=0.69 PH1階 Is=0.59 q=1.06
5-1	ドン・キホーテ 広島八丁堀店	中区新天地5番地1外	物販店舗	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.13 Is/Is0=0.24 Ctu・SD=0.13	未定	未定	RC造部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 5階 Is=0.13 Ctu・SD=0.13 4階 Is=0.34 Ctu・SD=0.36 3階 Is=0.19 Ctu・SD=0.25 2階 Is=0.22 Ctu・SD=0.30 1階 Is=0.41 Ctu・SD=0.43 Y方向 5階 Is=0.39 Ctu・SD=0.41 4階 Is=0.44 Ctu・SD=0.46 3階 Is=0.32 Ctu・SD=0.34 2階 Is=0.34 Ctu・SD=0.35 1階 Is=0.36 Ctu・SD=0.38
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.05 q=0.22			S造部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 5階 Is=0.05 q=0.22 Y方向 5階 Is=0.17 q=0.71
				別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=0.84 Is/Is0=1.16			塔屋部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72 X方向 PH2階 Is=1.40 PH1階 Is=0.84 Y方向 PH2階 Is=1.22 PH1階 Is=1.01
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.22 Is/Is0=0.40 Ctu・SD=0.31			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 6階 Is=0.66 Ctu・SD=0.71 5階 Is=0.48 Ctu・SD=0.52 4階 Is=0.40 Ctu・SD=0.44 3階 Is=0.23 Ctu・SD=0.32 2階 Is=0.22 Ctu・SD=0.31 1階 Is=0.33 Ctu・SD=0.36 Y方向 6階 Is=0.82 Ctu・SD=0.90 5階 Is=0.54 Ctu・SD=0.59 4階 Is=0.40 Ctu・SD=0.43 3階 Is=0.43 Ctu・SD=0.47 2階 Is=0.42 Ctu・SD=0.46 1階 Is=0.52 Ctu・SD=0.57

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
5-2	ドン・キホーテ 広島八丁堀店	中区新天地5番地1外	物販店舗	別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=0.78 Is/Is0=1.08	未定	未定	塔屋部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72 X方向 PH2 階 Is= 1.04 PH1 階 Is= 0.78 Y方向 PH2 階 Is= 0.86 PH1 階 Is= 0.85
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.20 Is/Is0=0.37 Ctu・SD=0.17			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 4 階 Is= 0.64 Ctu・SD= 0.68 3 階 Is= 0.45 Ctu・SD= 0.48 2 階 Is= 0.40 Ctu・SD= 0.43 Y方向 1 階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.17 4 階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.28 3 階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.21 2 階 Is= 0.35 Ctu・SD= 0.30 1 階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.26
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.10 q=0.40			耐震診断の結果(詳細) X方向 5 階 Is= 0.18 q= 0.72 4 階 Is= 0.10 q= 0.43 3 階 Is= 0.10 q= 0.40 2 階 Is= 0.14 q= 0.56 Y方向 1 階 Is= 0.11 q= 0.45 5 階 Is= 0.37 q= 1.50 4 階 Is= 0.21 q= 0.86 3 階 Is= 0.19 q= 0.77 2 階 Is= 0.21 q= 0.86 1 階 Is= 0.14 q= 0.56
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.05 q=0.21			耐震診断の結果(詳細) X方向 5 階 Is= 0.15 q= 0.60 4 階 Is= 0.06 q= 0.25 3 階 Is= 0.05 q= 0.21 2 階 Is= 0.07 q= 0.28 Y方向 1 階 Is= 0.11 q= 0.44 5 階 Is= 1.15 q= 4.61 4 階 Is= 0.67 q= 2.70 3 階 Is= 0.55 q= 2.20 2 階 Is= 0.60 q= 2.41 1 階 Is= 0.31 q= 1.25
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.11 q=0.46			耐震診断の結果(詳細) X方向 7 階 Is= 0.21 q= 0.87 6 階 Is= 0.13 q= 0.53 5 階 Is= 0.11 q= 0.46 4 階 Is= 0.17 q= 0.68 3 階 Is= 0.13 q= 0.54 2 階 Is= 0.14 q= 0.57 Y方向 1 階 Is= 0.15 q= 0.60 7 階 Is= 0.21 q= 0.87 6 階 Is= 0.13 q= 0.54 5 階 Is= 0.11 q= 0.47 4 階 Is= 0.16 q= 0.66 3 階 Is= 0.13 q= 0.52 2 階 Is= 0.14 q= 0.56 1 階 Is= 0.14 q= 0.57
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.15 q=0.63			塔屋部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH上 階 Is= 2.47 q= 2.47 PH 階 Is= 0.15 q= 0.63 Y方向 PH上 階 Is= 2.24 q= 2.24 PH 階 Is= 0.27 q= 1.11

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考			
						内容	実施時期				
6	広島センタービル (バスセンター、広島そごう) 本館	中区基町10番3, 4, 5, 8, 11	百貨店	別表2(6) 一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	Gis=1.00	耐震改修済	—	その他の用途:物販店舗、駐車場、旅客ターミナル			
								西館	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.56 Is/Is0=1.03 Ctu・SD=0.67	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54
								別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.55 Is/Is0=1.01 Ctu・SD=0.28	棟屋部分 耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54	
7	福屋 八丁堀本店 (東館)	中区胡町6番地1, 2, 3, 14, 19	百貨店	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版)	Is=0.98 q=1.63	—	—	—			
8	福屋 八丁堀本店 (本館)	中区胡町6番地7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 18	百貨店	—	耐震改修工事中	耐震改修	平成24年11月着手済 平成33年12月完了予定	—			
								A・B・E棟	—	—	
								C・D棟	—	—	
								C・D棟 塔屋部分	—		
9	イオンみゆき店	南区宇品御幸一丁目217の1他16筆	物販店舗	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版)	Is=0.66 q=1.05	耐震改修済	—	その他の用途:飲食店			
10	広島ステーションビル	南区松原町官有無番地	物販店舗	別表2(14) 建築物の構造耐力上主要な部分が昭和56年6月1日以降におけるある時点の建築基準法(昭和25年法律第201号)並びにこれに基づく命令及び条例の規定(構造耐力に係る部分(構造計算にあっては地震に係る部分に限る。))に適合するものであることを確認する方法	確認できる (Qu/Qun=1.11≥1.0)	耐震改修済	—	その他の用途:駐車場			
								別表2(14) 建築物の構造耐力上主要な部分が昭和56年6月1日以降におけるある時点の建築基準法(昭和25年法律第201号)並びにこれに基づく命令及び条例の規定(構造耐力に係る部分(構造計算にあっては地震に係る部分に限る。))に適合するものであることを確認する方法	確認できる (Qu/Qun=1.18≥1.0)	塔屋部分	

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の 主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の 地震に対する安全性の評 価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
11-1	総合家具センター 小田徳 B1棟	西区横川町一丁目4番地11, 12, 13, 27, 28	物販店舗	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.06 Is/Is0=0.10 Ctu・SD=0.07	未定	未定	耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 8階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.25 7階 Is= 0.16 Ctu・SD= 0.15 6階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.18 5階 Is= 0.16 Ctu・SD= 0.15 4階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.21 3階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.20 2階 Is= 0.35 Ctu・SD= 0.21 1階 Is= 0.42 Ctu・SD= 0.32 Y方向 8階 Is= 0.12 Ctu・SD= 0.12 7階 Is= 0.06 Ctu・SD= 0.07 6階 Is= 0.09 Ctu・SD= 0.09 5階 Is= 0.15 Ctu・SD= 0.08 4階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.09 3階 Is= 0.17 Ctu・SD= 0.09 2階 Is= 0.13 Ctu・SD= 0.09 1階 Is= 0.10 Ctu・SD= 0.10
	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合			Is=0.55 Is/Is0=0.91 Ctu・SD=0.38	塔屋部分 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 PH2階 Is= 1.43 Ctu・SD= 0.97 PH1階 Is= 0.93 Ctu・SD= 0.63 Y方向 PH2階 Is= 0.63 Ctu・SD= 0.53 PH1階 Is= 0.55 Ctu・SD= 0.38			
11-2	総合家具センター 小田徳 B2棟	西区横川町一丁目4番地11, 12, 13, 27, 28	物販店舗	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.11 Is/Is0=0.18 Ctu・SD=0.10	未定	未定	耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 5階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.27 4階 Is= 0.31 Ctu・SD= 0.29 3階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.27 2階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.27 1階 Is= 0.13 Ctu・SD= 0.16 Y方向 5階 Is= 0.18 Ctu・SD= 0.17 4階 Is= 0.11 Ctu・SD= 0.10 3階 Is= 0.14 Ctu・SD= 0.13 2階 Is= 0.16 Ctu・SD= 0.15 1階 Is= 0.14 Ctu・SD= 0.16
	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)			Is=0.20 Is/Is0=0.33 Ctu・SD=0.19	塔屋部分 Is0=0.60 X方向 PH2階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.19 PH1階 Is= 0.56 Ctu・SD= 0.27 Y方向 PH2階 Is= 1.61 Ctu・SD= 0.77 PH1階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.19			

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
12	ゆめタウン五日市店	佐伯区五日市五丁目1553番地1外	物販店舗	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.33 q=1.10	未定	未定	耐震診断の結果(詳細) X方向 3階 Is= 1.22 q= 1.94 2階 Is= 1.23 q= 1.95 1階 Is= 0.37 q= 1.24 Y方向 3階 Is= 0.93 q= 1.47 2階 Is= 0.78 q= 1.25 1階 Is= 0.33 q= 1.10
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)				

耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
		I	II	III	
		地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。	
(3-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$	
(4-1)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq Is/ Iso$	
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$Is/ Iso < 0.5$ 又は $Ctu \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/ Iso$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq Ctu \cdot SD$	
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$Is/ Iso < 0.5$ 又は $Ctu \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/ Iso$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U \leq Ctu \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$Is/ Iso < 0.5$ 又は $Ctu \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/ Iso$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U \leq Ctu \cdot SD$
(6)	一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	$Qu/ \alpha \cdot Qun < 0.5$	$0.5 \leq Qu/ \alpha \cdot Qun < 1.0$	$1.0 \leq Qu/ \alpha \cdot Qun$ かつ $GIs < 1.0$ $1.0 \leq GIs$	
(14)	建築物の構造耐力上主要な部分が昭和56年6月1日以降におけるある時点の建築基準法(昭和25年法律第201号)並びにこれに基づく命令及び条例の規定(構造耐力に係る部分(構造計算にあつては、地震に係る部分に限る。))に限る。)に適合するものであることを確認する方法	—	—	確認できる	

※別表1、2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)、(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及びIsoを算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。